

2023 インテグリティ教育

豊田 則成

びわこ成蹊スポーツ大学

JBA技術委員会ユース育成部会

1

**子ども未来に
責任を持つ！**

2

暴言暴力の根絶を目指して

- 議論を風化させてはならない
- まず10年間は議論し続けよう
- 暴言暴力の根絶は必須課題
- 社会的な責任を帯びている

3

子どもは困っている

4

保護者も困っている

5

コーチも困っている

6

コーチも苦しんでいる

- 何をどのように苦しんでいるのか、**見える化**する必要がある
- その苦しみは他の人々を苦しめていることもあるかも
- 時には人を傷つけてしまうことも

7

**悩みを共有し
互いに支え合う**

8

「技術指導」よりも「心の支援」を

- 子どもはコーチを**信頼**している
- 子どもを**保護**し**癒**していく
- 子どもを深く理解する(**心の伴走**)
- 学び続け、議論し**続ける**

9

子どもは大人の
ミニ化でない！

10

子どもたちは**発展途上**にある

- 奥行き知覚・動体視力(未完成)
- 周辺視・図と地の分化(未完成)
- 聴覚記憶(コーチからの指示を把握する)
- 聴覚弁別(指示や声援と雑音の聴き分け)
- 相手を打ち負かすことよりも、自分のベストを尽くすことを重視する(不安と自信)

11

暴力はイケナイ
暴言は？？？

12

コーチングは社会的な営み

13

**試合会場ではなくなってきた
では、普段の練習はどうか？**

14

指導 ≠ 支配

日常的に実践されている指導を振り返り、点検する必要がある

15

罰 ・ 脅し ・ 制裁

何も教えていない

16

暴言暴力 = 虐待

子どもたちの発達に不利益なかわりはおく身近なところにある

17

児童虐待防止法(略称)

- 正式 児童虐待の防止等に関する法律
- 虐待(Abuse: アビュース) 大人から子どもへの発達を阻害する行為全般
- ①身体的虐待(暴力・体罰)、②性的虐待、
③心理的虐待、④ネグレクト
- 保護者が対象(だからこそ厄介！)

18

マルトリートメント

「違法ではないけども、不適切なかかわり」

19

マル

(mal 悪い)

+

トリートメント

(treatment 扱い)

20

チャイルド・マルトリートメント

18歳未満の子どもに起こるあらゆる種類の身体的・心理的・性的虐待とネグレクト、商業的またはその他の搾取を行うこと、さらに責任、信頼または権力の関係の文脈において、子どもの心身の健康・発達・大人・対人関係などに害をもたらすこと。（世界保健機関 WHO）

21

指導者の不適切なコトバ

22

心理的虐待になっていないか

「指導者の焦りによって適切でないかわりとなっていないか」

23

指導者の不適切なコトバ（1）

□ 質問形式で問い詰める（答えようがない）

「何回言われたら分かるの？」

「どうしてそういうことするの？」

「ねえ、何やってるの？」

「誰に向かってそんな口のきき方をするんだ？」

【川上康則 2022 教室マルチリトメント. 東洋館出版社. p.35 引用】

24

指導者の不適切なコトバ（2）

- **本当の意図を語らず、裏を読ませようとする**（指導者の思い通りに動かそうとする）
「やる気がないなら、やらなくていい」
「もう勝手にすれば」
「好きにすればいいじゃん」
→ 「やりなさい」「勝手は許さない」

【川上康則 2022 教室マルチリトメント. 東洋館出版社. p.35 引用・改変】

指導者の不適切なコトバ（3）

- **脅して動かそうとする**（脅迫・威嚇）
「早くしないと、〇〇させないから」
「じゃあ、〇〇できなくなるけどいいんだね」
「もうみんなとは〇〇させられない」

【川上康則 2022 教室マルチリトメント. 東洋館出版社. p.35 引用】

26

指導者の不適切なコトバ（４）

□ **虎の威を借る**（だから、やっちゃいけないよ）

「お母さんに言うよ」

「お父さんを呼ぶよ」

「〇〇コーチに怒ってもらうからね」

【川上康則 2022 教室マルトリートメント. 東洋館出版社. p.36 引用・改変】

指導者の不適切なコトバ（５）

□ **下級生と比較する**（侮辱、軽視、バカにする）

「そんなこと1年生もやりません」

「そんな子は1年生からやり直してください」

「幼稚園に戻りたい？」

【川上康則 2022 教室マルトリートメント. 東洋館出版社. p.36 引用】

28

指導者の不適切なコトバ（6）

- **指導者側に責任がないことを強調する**

「ダメって言ったよね」

「もうやらないはずだったよね」

「さっき約束したばかりだよ」

【川上康則 2022 教室マルチリトメント. 東洋館出版社. p.36 引用】

29

指導者の不適切なコトバ（7）

- **見捨てる（無視、放置、ネグレクト）**

「じゃあ、もういい」

「さよなら」

「バイバイ」

【川上康則 2022 教室マルチリトメント. 東洋館出版社. p.37 引用】

30

**指導者は 子どもの
「心の代弁者」になっているか**

31

指導者の不適切なオコナイ

32

ネグレクトになっていないか

「主体性・自立の促しをカサに指導を放棄していないか」

33

指導者の不適切なオコナイ(1)

□ **高圧的な指導、大声で怒鳴る**

指導者の過度な期待に、子どもを無理矢理に
応えさせようとしていないか。

成果が実現しない焦りから、高圧的に迫り、
子どもが指導者の顔色ばかりをうかがって
いないか。威圧によって、子どもをコントロール
しようとしていないか。

【川上康則 2022 教室マルトリートメント. 東洋館出版社. p.16-37参考】³⁴

指導者の不適切なオコナイ(2)

□ **目を合わせない、笑いかけない**

一度も言葉を交わさずに、一日を過ごしてしまうような子どもはいないか。

指導者は、限られた時間の中で「心の安全地帯」となっているか。目を合わせ、笑いかけることで、「見ているよ」「大丈夫だよ」という安心感を子どもに与えているか。

【川上康則 2022 教室マルトリートメント. 東洋館出版社. p.39 要約引用³⁵】

指導者の不適切なオコナイ(3)

□ **こどもを放置する(無視する)**

一生懸命、指導者にアピールしてきているのに、その子どもを無視していないか。

子どもの積極性や努力を「正しく評価されていない」という気持ちは、こころを燻らせ、指導者への不信感を募らせる。その場の流れに合わないからといって無視してはイケナイ。

【川上康則 2022 教室マルトリートメント. 東洋館出版社. p.40 要約引用³⁶】

指導者の不適切なオコナイ(4)

□ 正当な理由もなく参加させない、一方的に練習から排除する

「上手くできないなら見ていなさい」と伝えるのは「指導者としての役割の放棄」や「子どもの排除」を意味する。

苦手さを理解し、スモールステップで子どもに自信を持たせてあげることが肝心である。

【川上康則 2022 教室マルトリートメント. 東洋館出版社. p.42 要約引用³⁷】

指導者の不適切なオコナイ(5)

□ 必要な賞賛をしない、成長を価値づけけない

「よく頑張ったね」と子どもの努力を認め、「できたね！よくやった！」と子どもを賞賛することはとても大切である。

子どもの成長に関心を抱く一方、励ましなどの適切な言葉がけを放棄してはイケナイ。

【川上康則 2022 教室マルトリートメント. 東洋館出版社. p.42-43 要約引用³⁸】

指導者の不適切なオコナイ(6)

□ **必要な情報の提供や共有を怠る**

子どもについての悩みや苦勞を他者と共有しないことは「可能性の放棄」にもつながる。「自分には自分のやり方がある」は諸刃の剣。確かに、それが功を奏することもあるが、「こどもとの関わり」は社会的な営みであり、「独善的」「独裁的」であってはならない。

【川上康則 2022 教室マルトリートメント. 東洋館出版社. p.43-44 要約引用】

指導者の不適切なオコナイ(7)

□ **子どもの気持ちや心理的な危機に気づけていない**

「本来怠ってはいけない危険の察知ができていない」ことも大きな問題である。

危険を放置すること、例えば、熱中症が危惧される中で水分補給を怠ったり、いじめを放置することも絶対にあってはならない。

【川上康則 2022 教室マルトリートメント. 東洋館出版社. p.45 参考・引用】

**指導者は 子どもの
「心の伴走者」になっているか**

41

**虐待に類似した指導は、まだ
まだ見える化されていない**

42

子ども理解の守備範囲を広げる

- 子どものちょっとしたミスが許せない
- 対応できないことを子どものせいにする

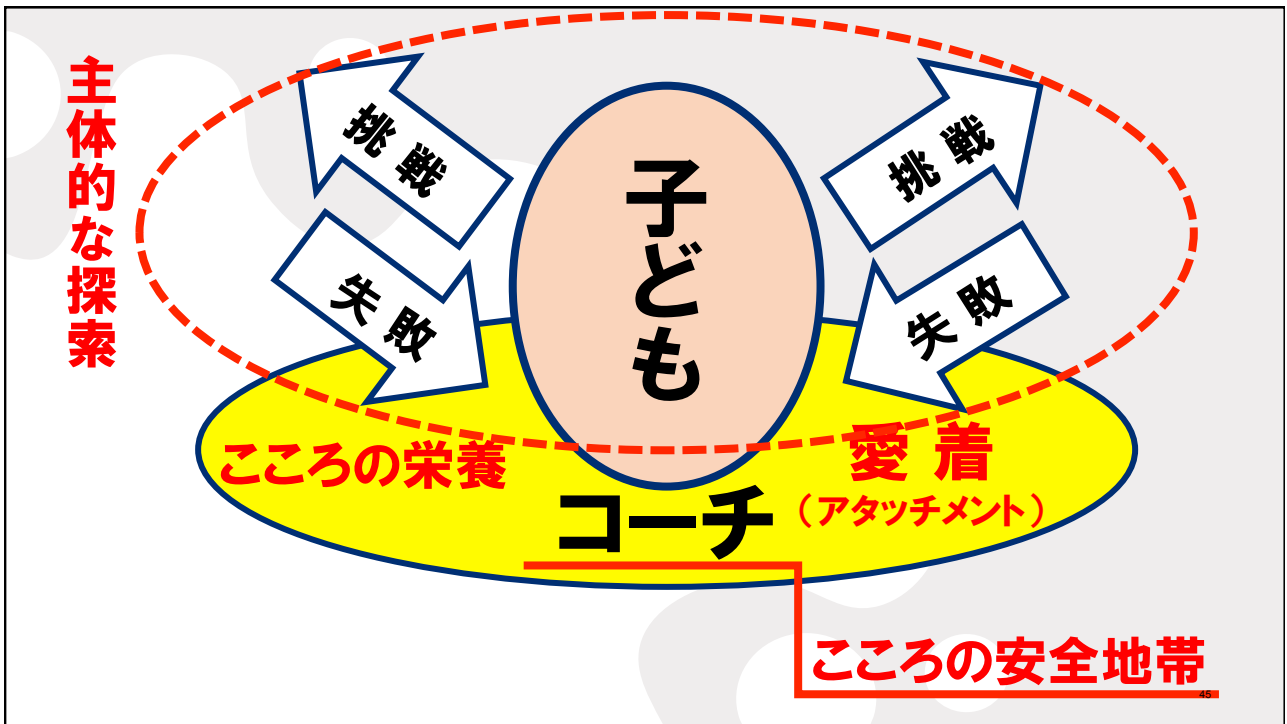


- 子どものちょっとした成長に気づこうとする
- 子どもの成長を何より嬉しく思う
- 子どもが対応できない時こそコーチの出番

【川上康則 2022 教室マルチリトメント. 東洋館出版社. p.207-209 要約引用】⁴³

アタッチメント コーチング

44



アタッチメントのつくり方

- 目を合わせる
- 笑いかける
- 語りかける
- 触れ合う
- 感謝を伝える
- 努力や過程を認める



自分のことを
気にかけてくれている



自分のことを
分かってくれている



安心して
挑戦することができる

【川上康則 2022 教室マルチリトメント. 東洋館出版社. p.180-181 要約引用】⁴⁶

子どもとの心の絆(キズナ)

47

健全な『絆』を深めていく

- 子どもを指導すると同時に、子供からも学ぶという姿勢を有する(相互性)
- 『やる気』を引き出す(動機づけ)
- 押し付けるのではなく、子どもと一緒にあって価値観・文化を作り上げていく

48

学ばざる者 教えるべからず

49

自己を振り返り、改善し続ける！

- 見直すべきは、自分自身だと理解する
- 頭で理解できたとしても、腑に落ちない
- 例え、腑に落ちたとしても、行動できない
- 行動できても、不器用でうまくいかない



- 常に自己反省に基づき、体質改善を目指す

【川上康則 2022 教室マルトリートメント 東洋館出版社 p.240 要約引用】

50

注意 下記著書を引用しています。
書店・図書等で、是非、ご参照ください。

川上康則 2022 教室マルトリートメント.
東洋館出版社.

川上康則（編著） 2023 不適切な関わり
を予防する教室「安全基地」化計画.
東洋館出版社.